

中国におけるジェンダー別学校制服の導入に 関する研究

LI Can

中国では、体操服が学校現場での学校制服として重要な役割を担ってきた。そして、それが学校現場で採用されてから既に 20 年以上経過している。しかし、2000 年代以降、学校で着用する制服は多様化し、特に男女別の学校制服については、近年多くの学校に導入されるようになってきた。本稿では、現代中国において、LGBT の多様性が認められていく中で、あえて男女別制服が中国で導入され始めているのかという問題と、その男女別制服の導入要因を考察したものである。

本論文は、序章、本論第一章～第六章の全七章によって構成されている。

第一章では、中国の学校制服、従来の中国社会の服装現象と現代社会の服装現象に分類される三つの先行研究群について検討する。第一に、学校制服に関する先行研究を社会学、量・質的な調査研究、歴史研究について分け、それぞれの中で重要な先行研究を紹介し、中国の学校制服に関する研究を総体的に把握した上で、男女別の制服に関する研究の考察が不十分であることを示す。第二に、従来の中国社会の服装現象である「男女混装」現象を取り上げ、中国特有の歴史・政治的背景と現在の学校制服との関係性を述べ、仮説を立てる。第三に、日本のサブカルチャーの影響による中国の特有の JK 制服文化の繁栄について紹介し、それによって、性差がある制服を導入するようになった可能性を提示する。

第二章では、春秋戦国時代から現代に至る学校制服の変化を巡る文化的背景を考察する。その制服の変遷を四つの段階に分け、各時期の学校制服の様態・作用を紹介する。特に第三段階「1960 年代から 1970 年代まで(文化大革命時)」と「1970 年代から現在」の部分に焦点を当て、体操服型の制服の形成・進展と学校制服産業の形成を論じつつ、本研究の方向性を示す。

第三章では、ジェンダー学の視点から、中国におけるジェンダーレス学校制服の問題と、現在進行している新たな制服、「ジェンダー別学校制服の問題点」を論じる。ジェンダーレス学校制服に関しては、先行研究によって展開している問題点に着目し、ジェンダーの視点で分析する。ジェンダー別学校制服の問題点については、トランスジェンダー当事者による男女別制服問題を取り上げることによって、男女別制服の形成と展開を論じ、その重要性を示す。

第四章では、現在社会において、ジェンダー別という性差が顕在化してきた学校制服を考察するために、服飾文化の背後にある中国のジェンダー秩序が重要となるため、近現代中国におけるジェンダー秩序を明らかにする。さらに、性的マイノリティにとって、果たして中国は生きやすい社会であるのかという問題について述べていく。中国では、性的マイノリティへの取り組みが展開されはじめてはいるものの、しかしその一方で、学校において性的マイノリティへの差別は依然として発生し続けていることを明らかにする。

第五章では、文献調査とインタビュー調査を用いて、男女別の制服を導入始めたことにたどり着いた要因を分析する。それを明らかにする第一段階として、多様性が認められていく時代に、ジェンダー別学校制服はどのように導入されてきたのかを明らかにするために、現在の学校制服の導入の流れを考察する。次に、日本のサブカルチャーによる JK 制服ブームは、学校制服の変化にどの程度の影響をもたらしているのかを明らかにする。最後に文献調査から得た知見を踏まえ、実際に学校現場の状況がどうなっているのか、という問題については、これまでの男女別の学校制服の実態研究が乏しいため、インタビュー調査を通じ、それらを明らかにしながら、文献調査から得た知見を再確認する。

第六章では、本論文での知見の整理を行った上で、結論を述べる。以下の三点のことを明らかにする。まず、男女別の学校制服の出現と進展については中国社会の価値観とジェンダー意識に緊密に関わっているということである。次に、日本のサブカルチャーの影響による JK 学校制服文化が、体操服型の制服から男女別の制服へ変化した重要な要因となっているということである。しかし、男女別の制服導入校は、日常的には体操服型の制服を着ることは変わっておらず、イベントの開催などの時に、男女別の学校制服を着用することを学校側が要求していることがわかった。最後に、体操服と男女別の制服を場面によって着用するという服装規範が、性差を無視する教育規範を維持させる一方で、学生たちに「男らしさ、女らしさ」という社会的期待を維持強化していくことに結びつくと推測される。

本論文は、歴史・政治背景やサブカルチャーに焦点を当て、男女別の学校制服の導入問題を、文献・インタビュー調査を用い、解明しようとしたものである。本研究の知見から学校現場における性的マイノリティの存在の不可視化と、男女別制服によるトランスジェンダー当事者の問題もこれから深刻になることを想定しており、トランスジェンダー当事者を対象とした制服研究も今後の課題として検討すべきであると考えている。